佐々町庁舎建設工事基本設計・実施設計業務委託

建　築　計　画　概　要　書

令和４年３月

佐々町

目 次

事業概要	-----	01
環境・防災・建築工事工程計画	-----	02
透視図	-----	03～06
配置計画	-----	07
平面計画	-----	08～10
断面計画	-----	11
立面計画	-----	12～13
外構計画	-----	14

Saza Town Hall

暮らし・つながりを支えるさざタウンホール

現庁舎は、昭和44年3月に建設され、供用開始後約50年を経過し、老朽化など様々な問題に直面しています。
加えて、耐震性能も不足していて、震度6以上の地震が発生した際は、倒壊する可能性が高いと診断を受けています。
東日本大震災、熊本地震などの大地震の発生に加え、近年では、豪雨や台風による大規模な自然災害も多く発生していることからも、災害時に行政サービスが継続できるよう防災拠点としての庁舎の早期整備が必要な状況となっています。
これらの問題を解決し、第7次佐々町総合計画が掲げるまちの将来像である『暮らしいちばん！住むならさざ～みんなが輝き、みんなで創るまち～』を実現するために庁舎建設を進めています。

基本理念／基本設計での取り組み

新庁舎建設に向けた基本方針（佐々町新庁舎建設基本構想）

（１）町民に親しまれる、やさしい庁舎
町民が親しみを持ち、開放的で人や情報の交流の場となる庁舎とします。また、すべての人にやさしい快適な庁舎の実現に向け、多様化する住民ニーズに柔軟に対応し、ユニバーサルデザインの理念に基づいた庁舎とします。さらに、充実した議会機能をもつ庁舎とします。

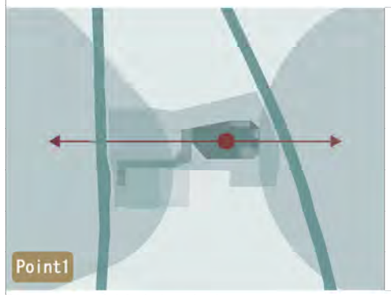
（２）町民を守る防災拠点としての庁舎
大地震や風水害などの自然災害にも行政機能を維持できるよう、十分な耐震性や自然災害に対応できる庁舎とします。また、町民のプライバシー情報や重要な行政情報を適正に管理するため、防犯や情報セキュリティ対策にも配慮した庁舎とします。

（３）効率的・経済的な庁舎
将来の財政負担の軽減・平準化を図り、総合的かつ長期的視点で施設のマネジメントが行われる庁舎とします。また、将来の町民ニーズや行政サービスの変化、組織体制の変化、現庁舎の課題、職員数の増減などに対応できるよう、柔軟性を持つ庁舎とします。

（４）環境に配慮し、周辺と調和した庁舎
自然エネルギーを積極的に利用した高効率な設備機器の導入により、ランニングコストを抑え、長寿命で省資源な庁舎とします。また、自然光を取り入れ、木質材を用いたぬくもりのある庁舎とし、周辺環境に潤いと憩いを与える緑化の整備された庁舎とします。

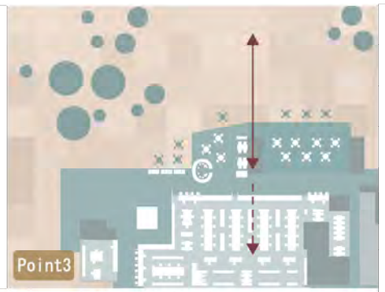
設計趣旨

基本計画のB案／C案を生かしさらに発展させた本計画の6つのポイント

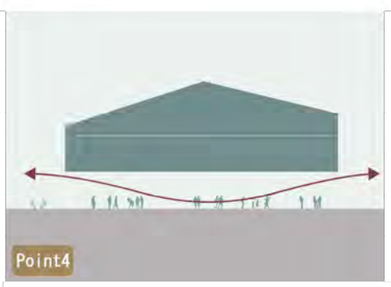


佐々町の地域を結ぶ新しい庁舎
栄町通り／国道204号に分れた佐々町の地域を駐車場計画と共にまちなかの結節点として結びます。

環境を巻き込む回廊型の動線計画
敷地周辺の文化会館やバス停等施設を巻き込みながら新しいまちのみちを敷地全体でつくります。

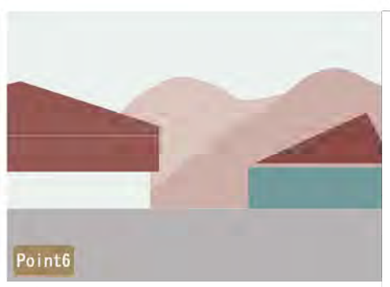


集まる広場と繋がる窓口空間
内・外部が常に連続する開放的な空間／状況に応じて可変可能な柔軟な空間を１階に大きく設けます。



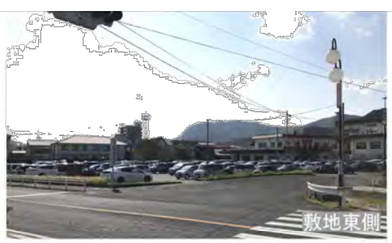
開かれた１階 コンパクトな２／３階
明快な機能配置による町民／職員エリアの住み分けにてわかりやすく使いやすい優しい庁舎とします。

水害対策を兼ねる外構/ひろば計画
浸水対策による敷地全体の嵩上げが多様な過ごし方を後押しする屋外空間と融合した計画とします。



大きな風景のシルエットをつくる
城辻山／大岳や長年愛されてきた文化会館の風景と呼応する新しいまちの顔となるシルエットをつくります。

周辺案内図／周辺写真



敷地概要

- 計　画　地：長崎県北松浦郡佐々町本田原免168番地2
- 敷地面積：１０，１０７．８７㎡
- 用途地域：無指定
- 都市計画区域：区域区分未設定地域（非線引き区域）
- 防火地域：指定なし

建築概要

- 主要用途：庁舎（事務所）
- 構造種別：鉄骨造
- 建築面積：１７０３．５９㎡
- 延床面積：３７８８．５８㎡
- 階　数：地上３階
- 高　さ：１５．５９ｍ
- 駐車場：２０７台
- 駐輪場：２２台
- 法定建蔽率：７０％
- 法定容積率：３００％

環境・防災・断面計画

環 境 計 画

諸室の南面配置や卓越風を利用した施設全体のので換気通風計画、日射遮蔽スクリーン採用等による自然エネルギーの有効利用に加え、高効率省エネ設備の導入を費用対効果を考慮し施策選定を行うことでLCC縮減を図ります。さらに、太陽光パネル導入によりエネルギー創出も可能な環境型の庁舎を目指します。

■ 費用対効果に基づく環境型庁舎

エネルギー効率の高いLED照明や、Low-E複層ガラス等を採用することで費用対効果の高い快適な室内環境を実現します。さらに、創エネ設備として太陽光発電パネルの導入を図ることで、エネルギーの創出と消費削減を両立した環境型の庁舎を実現します。

■ 諸室配置やパッシブ技術による熱負荷への対策

職員利用諸室を南面に配置し庇を設けることで自然光を適度に取り入れながらも壁量を確保した熱負荷の小さい快適な環境を実現します
また、東西面/北面は日射遮蔽スクリーンにより熱負荷を抑制しつつ光を拡散し、明るく安定した光熱環境を創出します。

■ 将来の更新、維持管理性に優れたﾌﾚｷｼﾌﾞﾙな設備計画

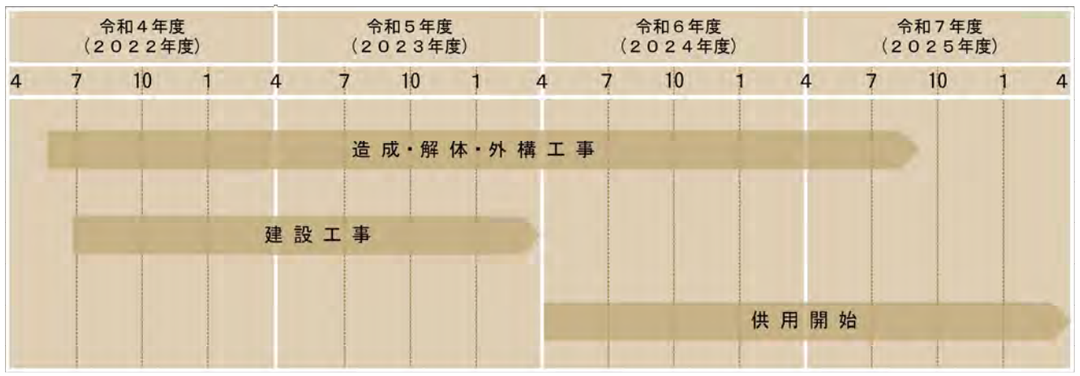
執務エリアは、OAフロアによる床下配線により、将来の機構改革への対応が可能な計画とします。また、日射遮蔽スクリーンと外壁間のメンテナンススペースや日々の窓清掃の容易な開き勝手の採用、足場の確保などにより、メンテナンスを容易にし建物の長寿命化を図ります。

■ 省エネ適合

熱負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ省エネルギー化を実現します。省エネルギー性能指標(数値が低いほど良い)は、基準値を大幅に下回る省エネ性能の高い庁舎です。

熱負荷抑制と光の拡散を促す日射遮蔽スクリーン

建 築 工 事 工 程 計 画



防 災 計 画

災害時には、さざホールやラウンジなど日常使いの場を災害対策機能へ転用し機能させることのできる効率的な建築計画としています。さらに、インフラ断絶後72時間自立運用可能な自家発電設備や下水道が利用できなくなった際の汚水槽の設置、周辺施設と連携の取りやすいひろば、駐車場の配置計画により災害に対する対応力と復旧力の高いBCP庁舎として災害時の司令塔としての役割を担います。

■ 明快なセキュリティ計画による庁舎機能の最大化

庁舎内をセキュリティレベルに応じた明快なエリア計画とすることで、共用部を災害時の一時避難場所やボランティア拠点として開放できる無駄のない計画とします。

■ 機械室の上階設置

機械室やサーバー室を上階に配することで浸水時のノンダウン化を図り、災害時も庁舎機能を維持し防災拠点としての役割を果たすことのできる計画とします。

■ 設備関係（自家発電設備/汚水槽）

自家発電設備導入や地下ピットを利用した汚水槽の災害時利用により、災害時にも対応できるレジリエンスに優れた庁舎を実現します。

■ 敷地全体防災拠点計画

防災拠点機能の確保に当たり、ハザードマップによる浸水範囲(500㎜)である敷地のレベルを、掘削残土等を利用し最低500㎜嵩上げします。これにより、駐車場等が防災拠点として利用可能となり、自衛隊の展開や近隣からの一次避難対応も行える、敷地全体の防災拠点化を図ります。

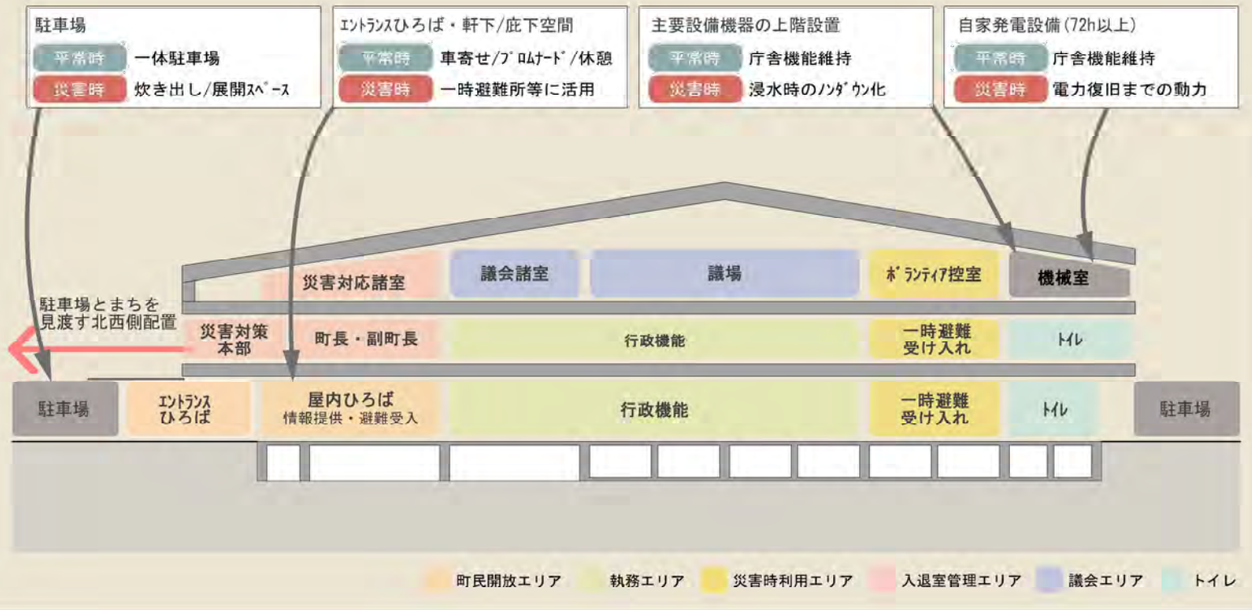
■ 浸水高より高く設定された1階床レベル

敷地全体防災拠点計画に合わせ、１階の床高さにおいてもハザードマップ(佐々川の氾濫による浸水想定区域:500㎜)よりも高い高さに設定しています。

■ 大会議室（災害対策本部）/町長・副町長室の配置

２階北西に災害対策本部を配置することで災害対応拠点として利用可能な駐車場を一望できる計画とします。さらに、町長室や執務室からも容易にアクセスできる計画とし円滑な対応が可能な防災拠点をつくります。

状況を見渡せる災害対策本部と
連携が容易な配置



透視図　鳥瞰イメージ

国道204号側より新庁舎敷地全体と文化会館をみた鳥瞰イメージ

新庁舎は、佐々町の風景に寄添うシルエットとしています。このシルエットをもつ建物と文化会館をまきこんだ敷地全体でつくる新しい庁舎計画は、まちなかの結節点として東西の地域を結ぶ新たな居場所となります。

栄町通りからエントランスまで連続する屋根付きのアプローチや栄町通り側に設けた屋根付き駐車場は、雨天時にも利用しやすい子育て世代や高齢者の方々に優しい空間です。また、屋根付きのデッキ（丘のデッキ）やゆるやかな丘状のひろば（さざの丘）など、屋内と一体的に利用可能な様々な屋外空間を計画しています。

透視図　国道側外観イメージ

国道204号側より新庁舎とさざの丘をみたイメージ

庁舎１階共用部（さざホール含む）から文化会館へつづく丘のデッキやさざの丘は、開放的かつ歩車分離による安全安心なひろばです。また、国道204号沿いに計画している木々や車止めなどにより、道路との間に緩やかな境界をつくることで、ひろばに安心感が生まれます。じゃぶじゃぶ池やアートベンチのあるさざの丘は、日常に寄添う町の新しい名所であり、庁舎と文化会館を緩やかにつなぐひろばでもあります。周囲からの視認性もあり、夜間には街灯のあかりに包まれる地域にみまもられた多世代型の屋外空間です。

透視図　１階内観イメージ

１階執務エリアより北側のさざホール/ラウンジ越しにさざの丘/文化会館をみたイメージ

１階の執務エリアと共用部は、一体的なワンルーム空間としています。窓口空間は、目的の場所がすぐに分かるよう適切なサイン計画を行い、大きなカウンターにて来庁者と職員が気軽に交流できる設えです。さざホールは、扉を全開放可能な折戸とすることで、他共用部やさざの丘との一体利用を可能としています。また、期日前投票や会議室利用、イベント時利用等柔軟性の高いホールとなります。これら１階のさまざまな機能をもつ屋内空間は、そのすべてがダイナミックにぐるりと屋外各所（さざの丘や文化会館など）へ開かれた明るく開放的な居場所です。

透視図　２階内観イメージ

２階共用部より執務エリア/さざホール越しに丘のデッキ/さざの丘をみたイメージ

ルーバー状のスクリーンに覆われた北側より、やわらかな自然光（安定光）を取込むことで、明るく開放的な屋内空間をつくります。また、さざホールの吹抜けにて１階からつながる共用部、２階多目的コーナーやテラスから３階につながる大きな吹抜け空間により、屋内外の活動や活気が建物全体にあふれる空間となります。さざホール吹抜けの両側に設えた相談ブースでは、来庁者/職員間の相談や職員同士の簡易な打合せが行えるなど、多様なニーズに対して、各エリアの特性を生かした利用が可能な共用部計画としています。

配置計画

配 置 計 画

みんなが集う庁舎だからこそいきる、まちの風景と一体に計画される大きなひろばのようなコミュニティーベースをつくります。

■ 小さな拠点ネットワーク

まちの風景と一体に計画される、大きなひろばのようなコミュニティーベースをつくります。佐々町が長い時間をかけて育んでいる成熟した人と人とのつながりを生かすことのできる拠点ネットワークの核となる庁舎計画です。

■ まちなかの結節点

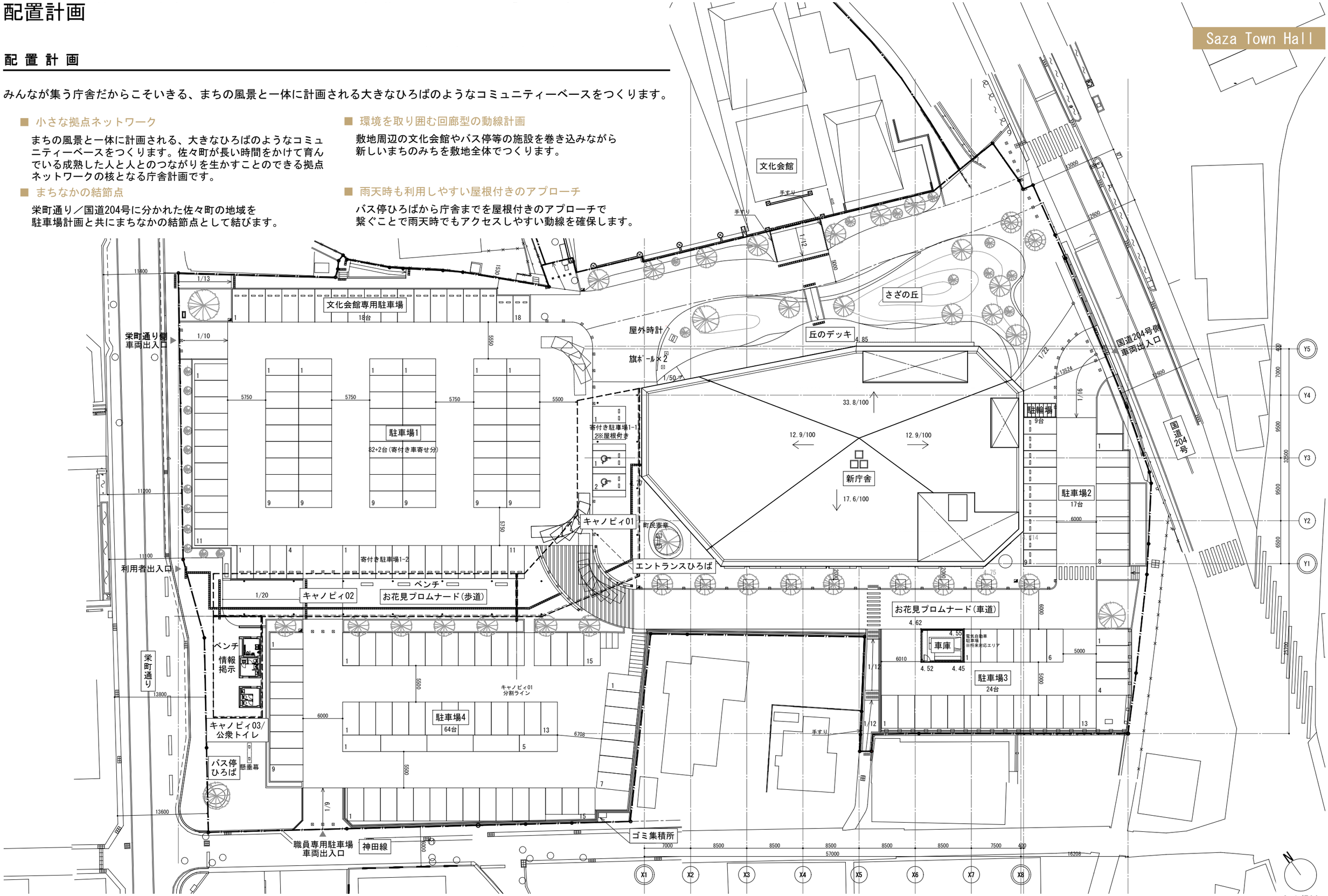
栄町通り／国道204号に分かれた佐々町の地域を
駐車場計画と共にまちなかの結節点として結びます。

■ 環境を取り囲む回廊型の動線計画

敷地周辺の文化会館やバス停等の施設を巻き込みながら
新しいまちのみちを敷地全体でつくります。

■ 雨天時も利用しやすい屋根付きのアプローチ

バス停ひろばから庁舎までを屋根付きのアプローチで
繋ぐことで雨天時でもアクセスしやすい動線を確保します。



S=1/500

平面計画　１階

平 面 計 画

明快なフロア構成とフレキシブルな執務空間構成を軸にコンパクトですべての人に使いやすい庁舎とします。

■ 誰でも使いやすい明快なフロア構成

１階に町民の利用率の高い課を配置し、ワンフロアで行政サービスを提供できる利便性の高い配置計画とします。２階には専門的な行政機能、３階には議会関係を集約しシンプルで明快なフロア構成とします。

■ フレキシブルな執務空間

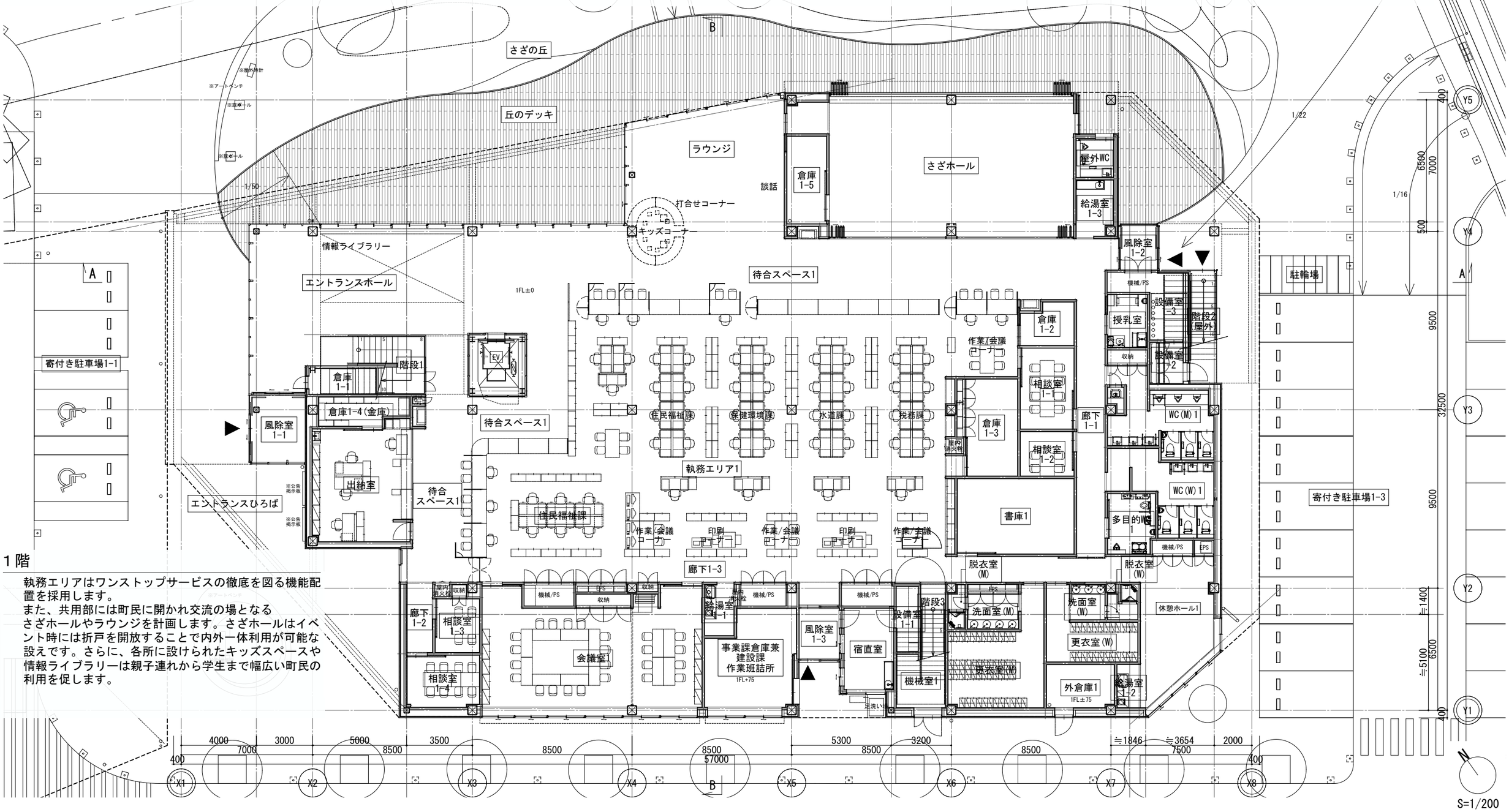
執務空間は、一体的でオープンな空間とすることで、将来の機構改革にも対応し、様々な転用を見越した建物の長寿命化を可能とします。

■ 町民に開かれた様々なオープンスペース

１階にさざホール、２階に多目的コーナー、３階は会議室や図書室など、町民と職員が共有可能な空間を設け、面積縮減と共に建物の効率的な活用を促します。

■ 災害時の迅速な機能連携を可能にする各室配置

敷地全体を嵩上げすることで、災害時は、敷地全体が防災拠点となります。災害対策本部を２階に配することで災害時に駐車場やまちの様子を見渡すことができ迅速な対応ができる計画とします。



S=1/200

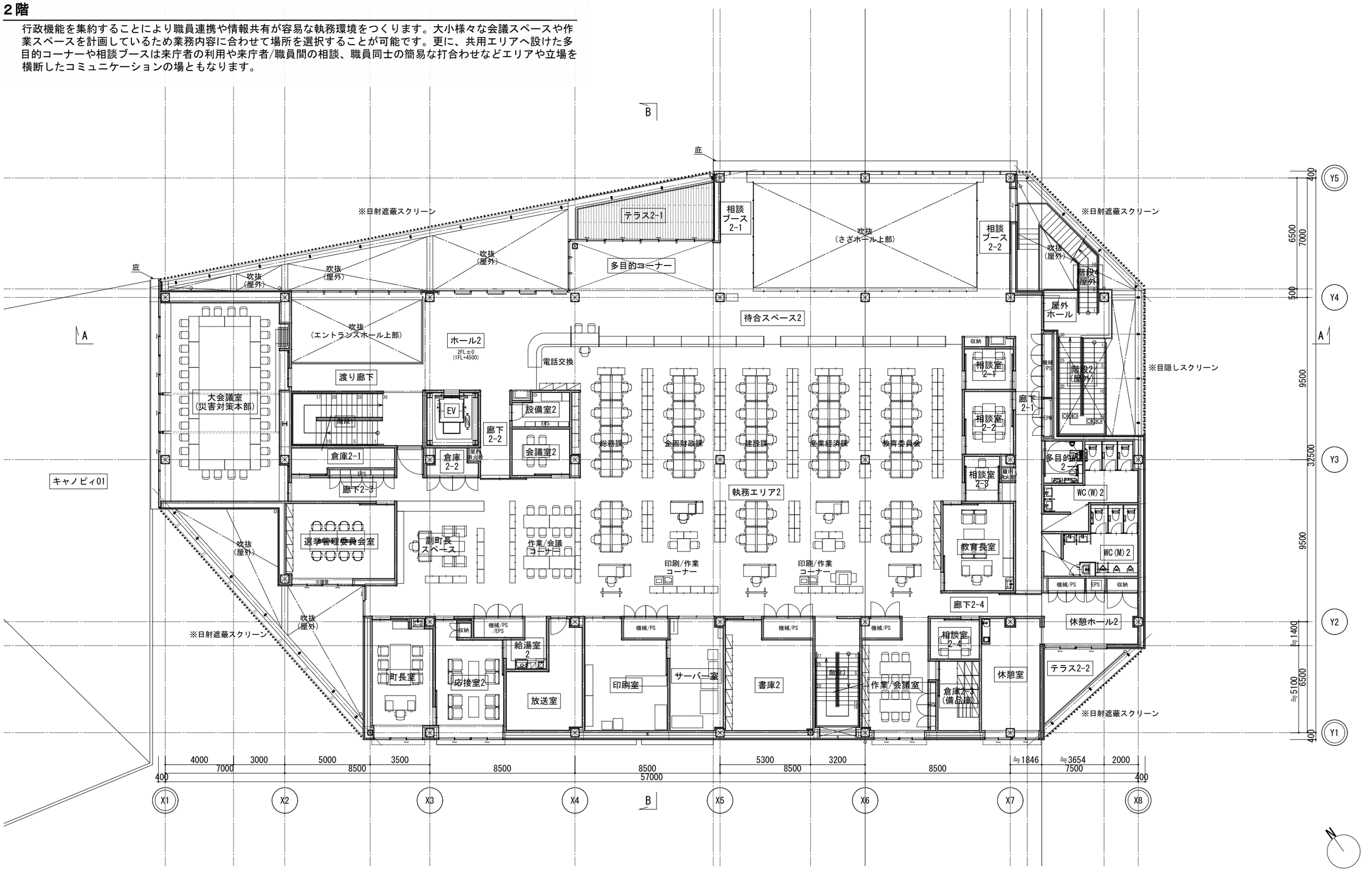
１階

執務エリアはワンストップサービスの徹底を図る機能配置を採用します。
また、共用部には町民に開かれ交流の場となるさざホールやラウンジを計画します。さざホールはイベント時には折戸を開放することで内外一体利用が可能な設えです。さらに、各所に設けられたキッズスペースや情報ライブラリーは親子連れから学生まで幅広い町民の利用を促します。

平面計画　２階

２階

行政機能を集約することにより職員連携や情報共有が容易な執務環境をつくります。大小様々な会議スペースや作業スペースを計画しているため業務内容に合わせて場所を選択することが可能です。更に、共用エリアへ設けた多目的コーナーや相談ブースは来庁者の利用や来庁者/職員間の相談、職員同士の簡易な打合わせなどエリアや立場を横断したコミュニケーションの場ともなります。

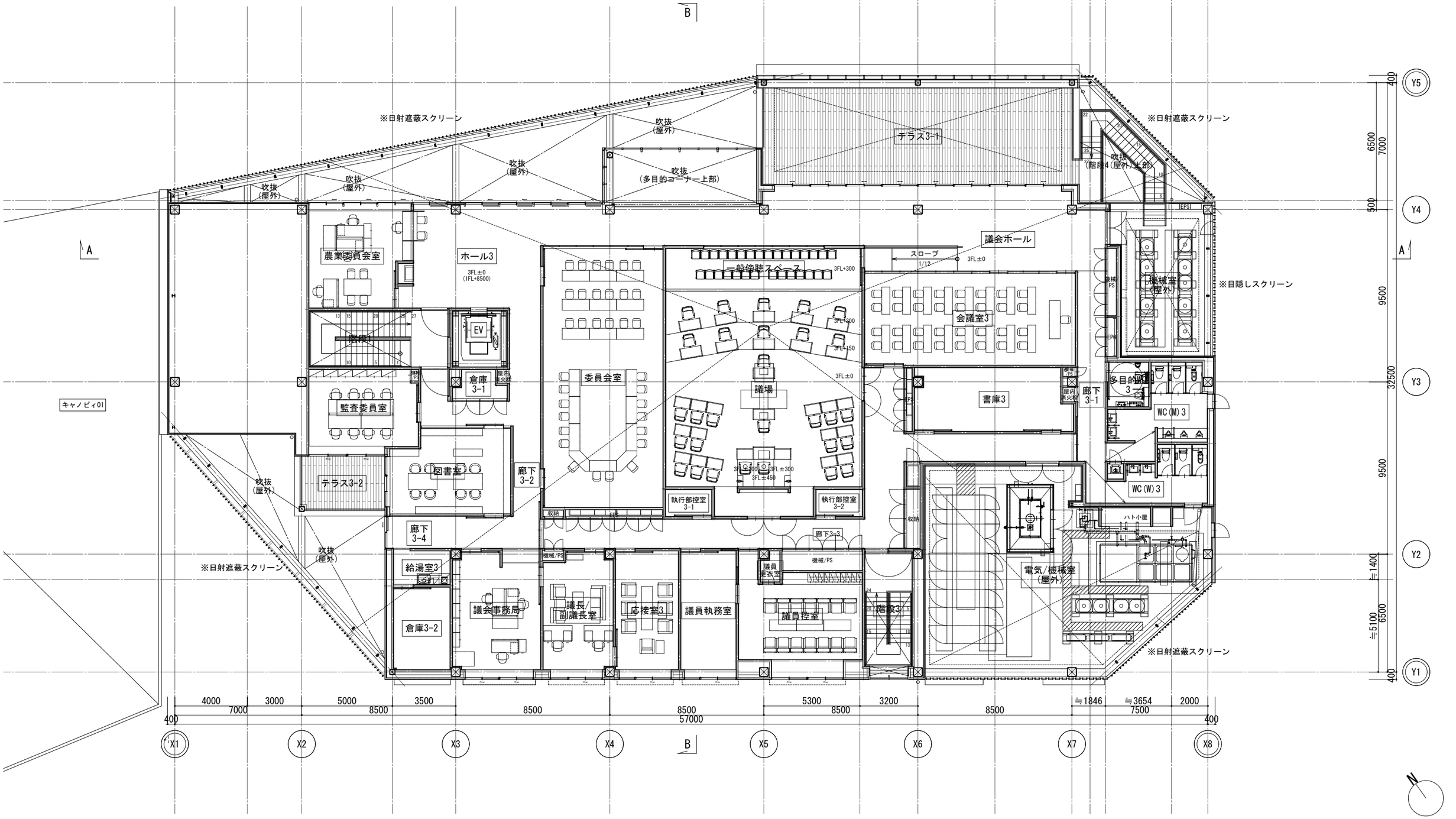


S=1/200

平面計画　３階

３階

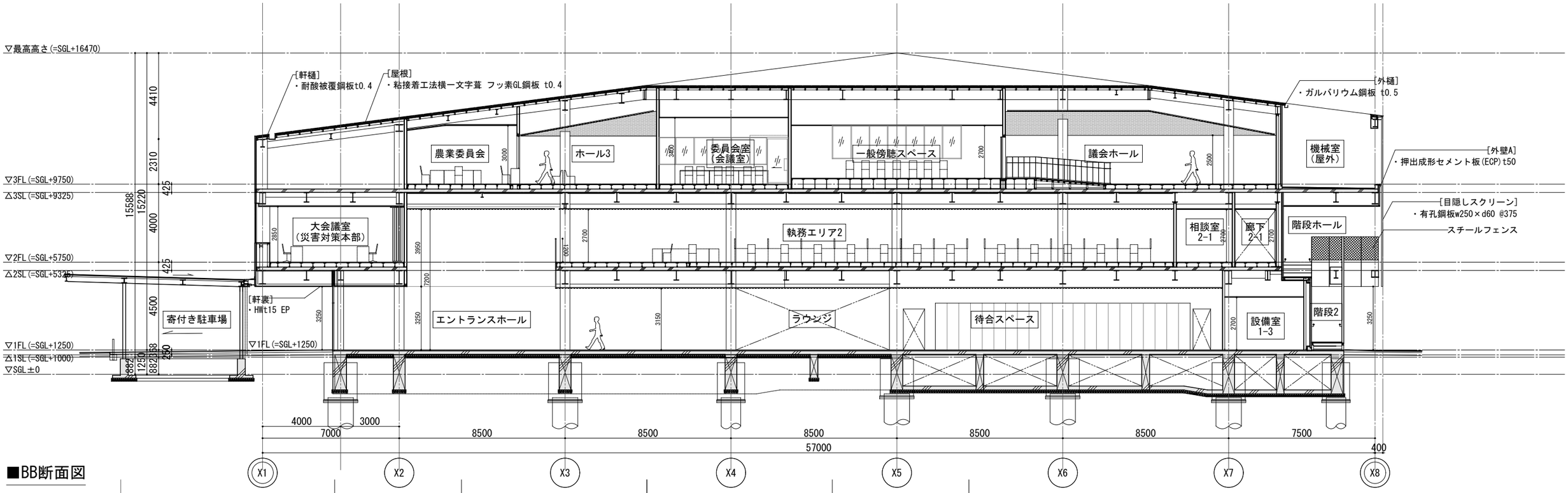
議会エリアと共に町民や学生の方々が日常の中で自由に活動できるスペースを設えます。議会図書室も開放された小さな読書スペースです。１階から階段で直接アクセスできる北側の大きなテラスをはじめとし、ワークショップでの様々な意見やご要望を反映した、まちの居場所として開放された場をつくります。議場は、議会ホールからガラスを介して見ることのできる議会透明性を確保した設えとしています。傍聴スペースは、バリアフリーにてアクセス可能です。



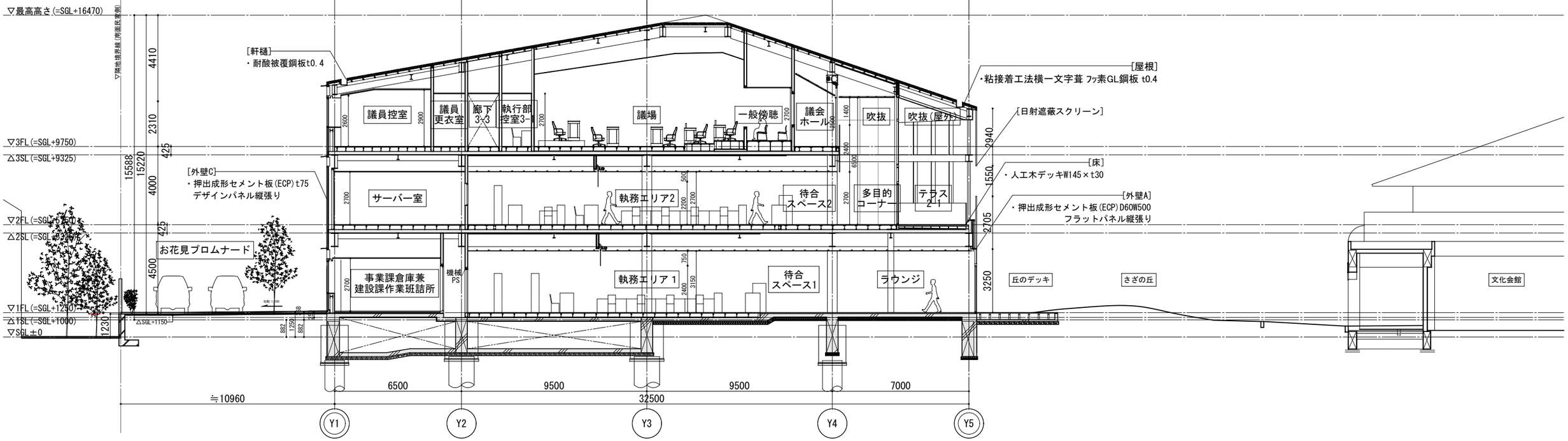
S=1/200

断面計画

■AA断面図



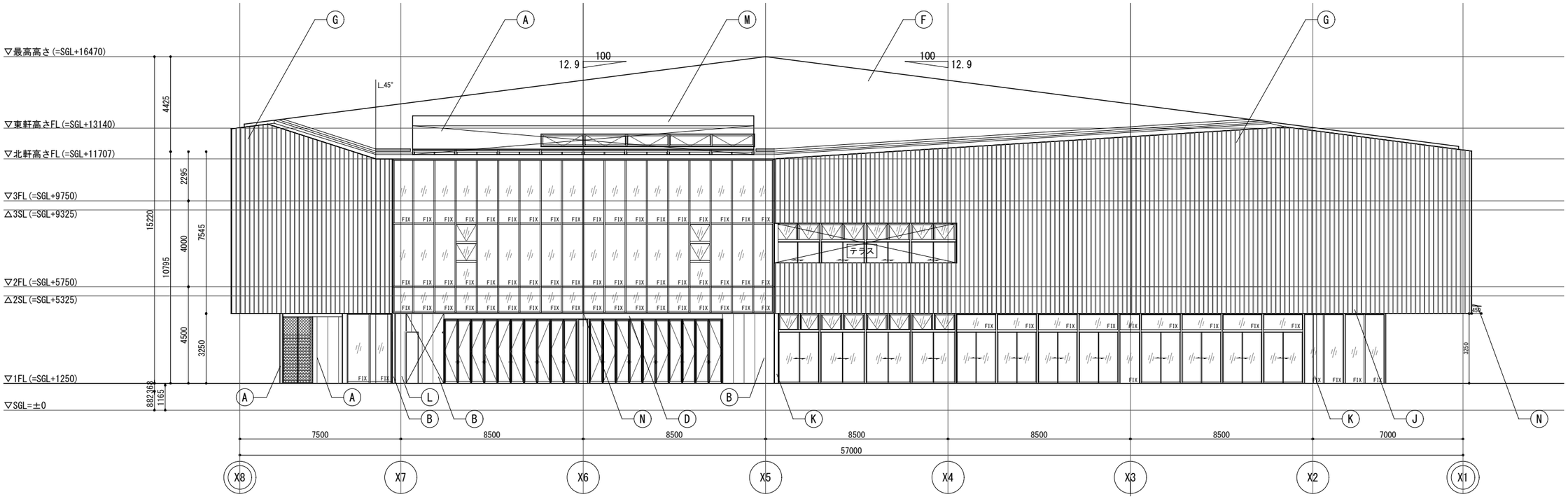
■BB断面図



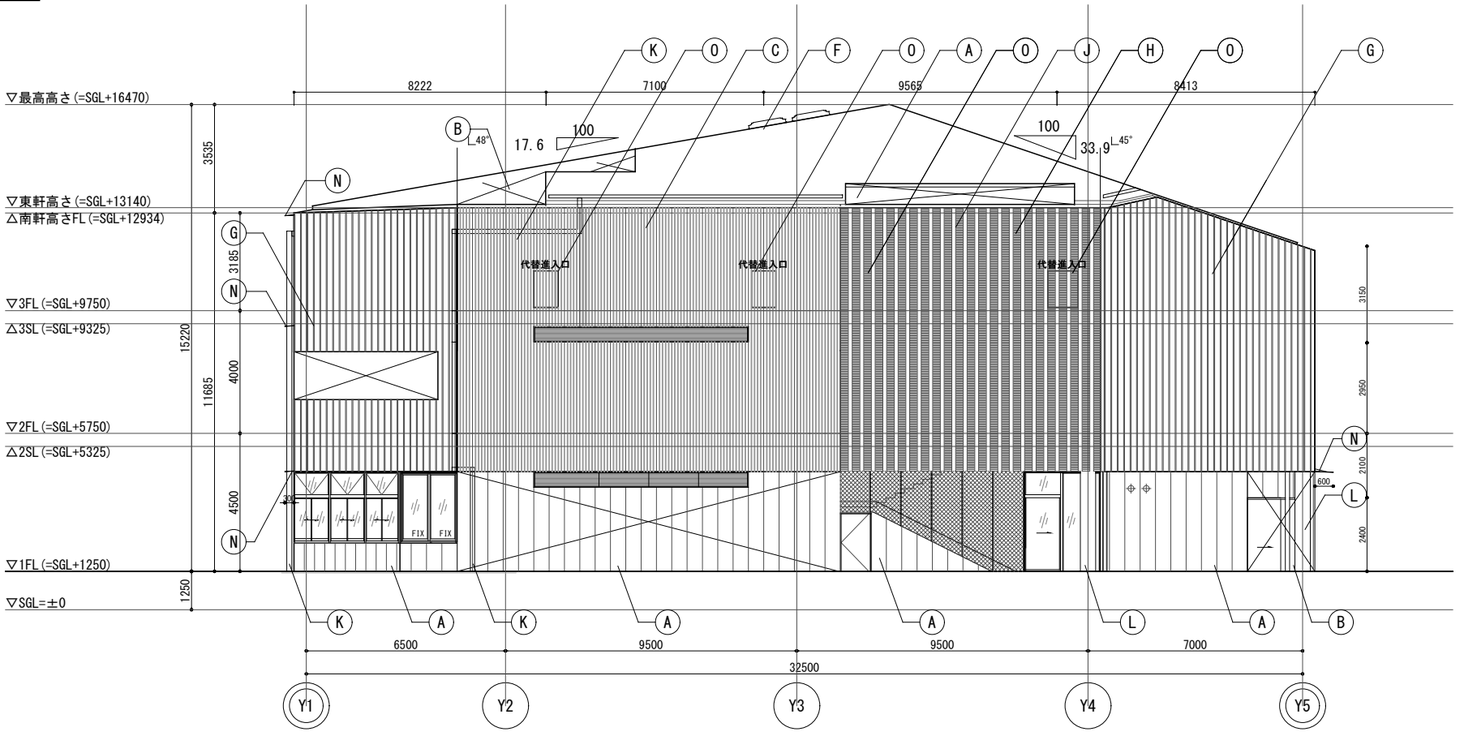
S=1/200

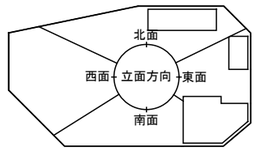
立面計画

■北立面図



■東立面図



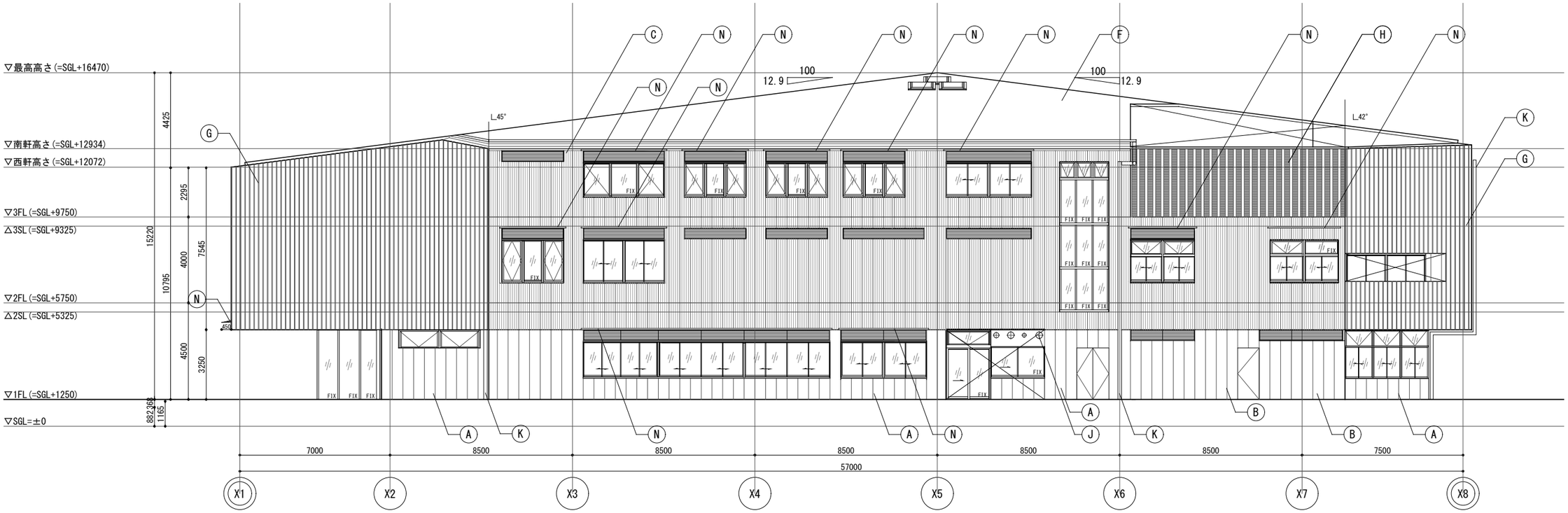


Ⓐ	外壁A	押出成型セメント板(ECP)フラットパネル縦張り t50 W500
Ⓑ	外壁B	押出成型セメント板(ECP)フラットパネル縦張り t60 W500
Ⓒ	外壁C	押出成型セメント板(ECP)デザインパネル縦張り t60 W500
Ⓓ	外壁D	ロールフォーミングアルミスパンドレル t0.8 W105
Ⓔ	幕板	屋根同材
Ⓕ	屋根	粘着接着工法 一文字葺き フッ素GL鋼板t=0.4
Ⓖ	日射遮蔽スクリーン	AL縦ルーバー W30×D50 @210
Ⓗ	目隠しスクリーン	有孔鋼板 W250×D60 @375
Ⓘ	手摺	外部手摺 H1200 ※一部開口部合わせ
Ⓙ	設備	ベントキャップ(φ150/φ200/φ250)
Ⓚ	竪樋	AL竪樋 (φ140/φ160)
Ⓛ	柱(露出部)	2液反応硬化型耐火塗料 ※耐火リスト参照
Ⓜ	外樋	AL軒樋
Ⓝ	庇	鋼製既成庇
Ⓞ	代替進入口	SD各種

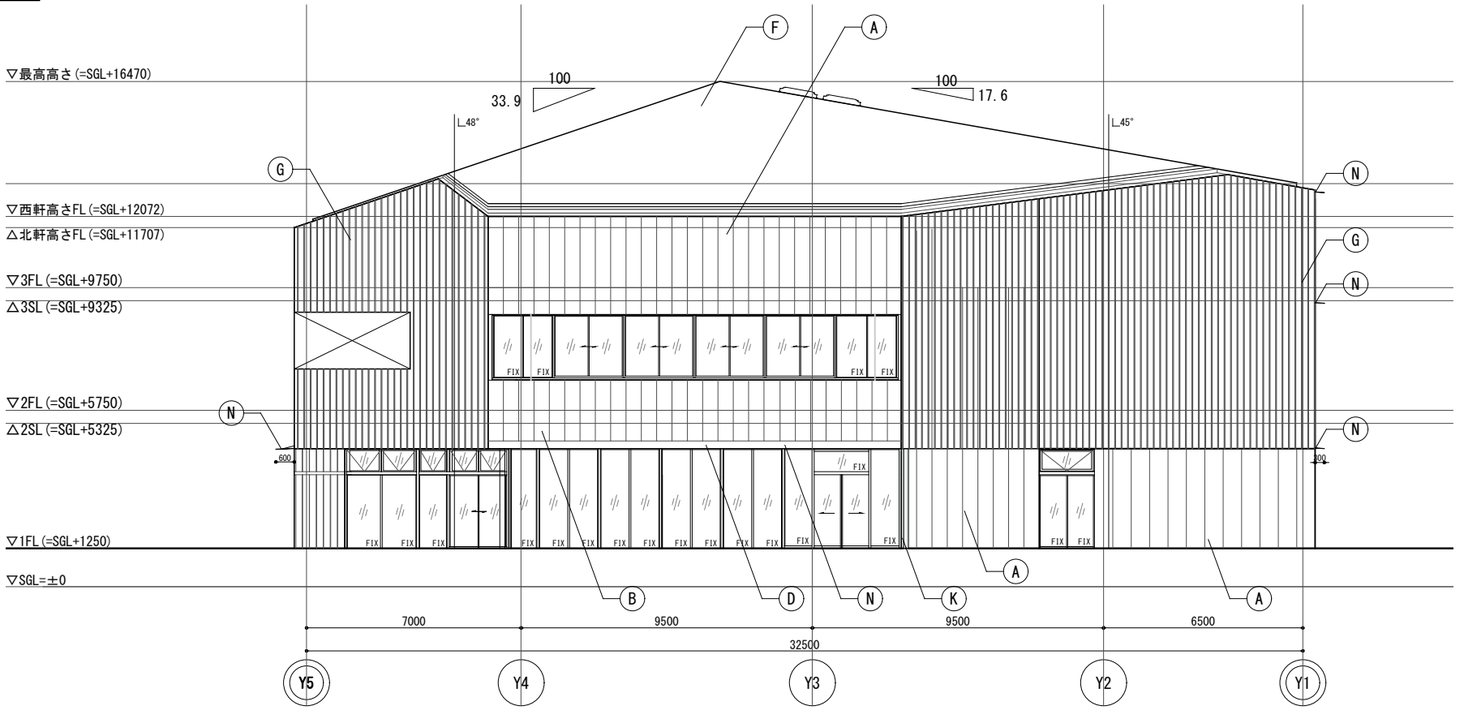
S=1/200

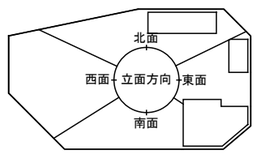
立面計画

■南立面図



■西立面図





A	外壁A	押出成型セメント板(ECP)フラットパネル縦張り t50 W500
B	外壁B	押出成型セメント板(ECP)フラットパネル縦張り t60 W500
C	外壁C	押出成型セメント板(ECP)デザインパネル縦張り t60 W500
D	外壁D	ロールフォーミングアルミスパンドレル t0.8 W105
E	幕板	屋根同材
F	屋根	粘着接着工法 一文字葺き フッ素GL鋼板t=0.4
G	日射遮蔽スクリーン	AL縦ルーバー W30×D50 @210
H	目隠しスクリーン	有孔鋼板 W250×D60 @375
I	手摺	外部手摺 H1200 ※一部開口部合わせ
J	設備	ベントキャップ(φ150/φ200/φ250)
K	竪樋	AL竪樋 (φ140/φ160)
L	柱(露出部)	2液反応硬化型耐火塗料 ※耐火リスト参照
M	外樋	AL軒樋
N	庇	鋼製既成庇
O	代替進入口	SD各種

S=1/200

外構計画

駐車場計画

栄町通り/国道204号の双方からアクセスできる駐車場とし、緑あふれる歩行空間をつくります。

■ すべての利用者にやさしい駐車場計画

天候(雨天/猛暑等)に左右されず利用可能な庁舎として直ぐにアクセスできる屋根付きのアプローチを駐車場に隣接させます。子育て世代に寄り添い高齢者の方々に優しい屋根付きの寄付き駐車場は、多様な交流のきっかけになります。

■ 敷地を横断するお花見プロムナード

歩行者動線にも敷地を横断できるプロムナードをつくります。並木を計画しており、メイン動線となります。

■ 両側の道からアクセスできる駐車場

栄町通り、国道204号線の双方からアクセスできる計画としています。また、敷地内の車の動線をクランクさせることでスピードを出させないような設計とした、安全性と利便性を両立した通り抜け可能な駐車場計画です。

■ イベント対応可能な駐車場計画

町内イベント時には各所駐車場を開放し利用でき、様々なアクティビティに対応できる計画としています。

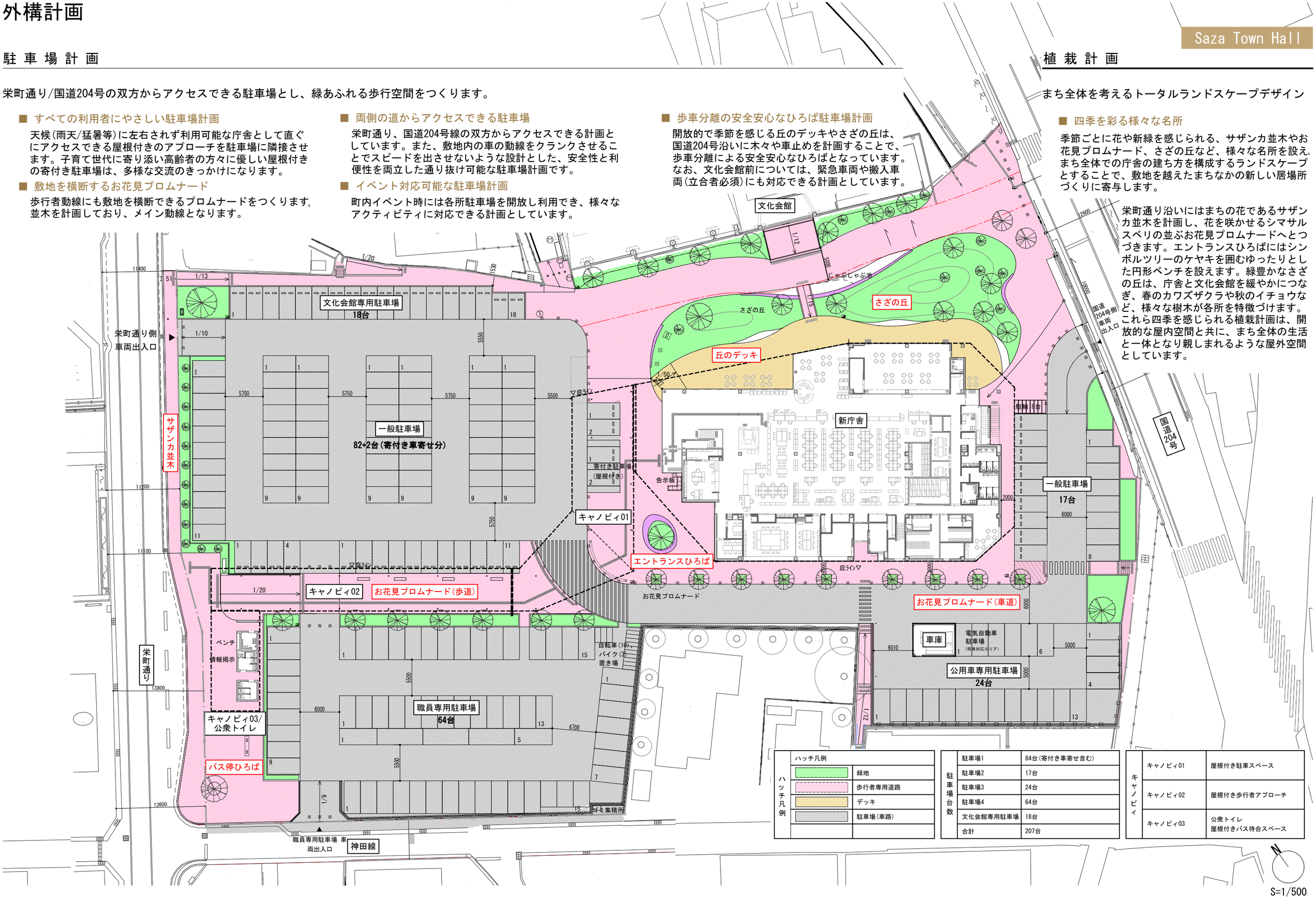
■ 歩車分離の安全安心なひろば駐車場計画

開放的で季節を感じる丘のデッキやさざの丘は、国道204号沿いに木々や車止めを計画することで、歩車分離による安全安心なひろばとなっています。なお、文化会館前については、緊急車両や搬入車両(立合者必須)にも対応できる計画としています。

植栽計画

まち全体を考えるトータルランドスケープデザイン

■ 四季を彩る様々な名所

季節ごとに花や新緑を感じられる、サザンカ並木やお花見プロムナード、さざの丘など、様々な名所を設え、まち全体での庁舎の建ち方を構成するランドスケープとすることで、敷地を越えたまちなかの新しい居場所づくりに寄与します。

栄町通り沿いにはまちの花であるサザンカ並木を計画し、花を咲かせるシマサルスベリの並ぶお花見プロムナードへとつづきます。エントランスひろばにはシンボルツリーのケヤキを囲むゆったりとした円形ベンチを設えます。緑豊かなさざの丘は、庁舎と文化会館を緩やかにつなぎ、春のカワズザクラや秋のイチョウなど、様々な樹木が各所を特徴づけます。これら四季を感じられる植栽計画は、開放的な屋内空間と共に、まち全体の生活と一体となり親しまれるような屋外空間としています。